



## 日本体育・スポーツ経営学会第60回研究集会

# まちづくりとスポーツの力

### 【期日・会場】

2018年12月9日(日)

13:00~16:00

東北学院大学  
土樋キャンパス  
ホーイ記念館  
H303教室

### 【日程】

講演

13:00~13:50

パネルディスカッション

14:00~15:50

### 【参加費】

正会員 1500円

学生 1000円

一般(社会人)2000円

★東北学院大学の学生は  
無料です

### 【申し込み方法】

前日までに、御氏名・御所属  
をお書き添えの上、

FAX:

022-375-3472

または

メール:

amano1965@@hotmail.com

@は一つにして下さい

にて東北学院大学天野研究  
室までお申込みください。

### 【主催】

日本体育・スポーツ経営学会

### 【後援】

東北学院大学(地域構想学科)

宮城県スポーツ協会

### — 開催趣旨 —

産業構造の変化や、高度に発展した近代技術が結果としてもたらす利便性などの代償として、  
我国では地域での人の繋がりの希薄化、地域における社会の崩壊が問われるようになって久しい。  
その一方で、人の生活の根源に関わる問題を生起するこれらの構造を、変革する術を我々は未だ  
に見出し得ていないのも事実である。

スポーツは、その実践において他者との協働を必要とするがゆえ、半ば意図せずに集団や人の  
つながりを生み出してきた。スポーツが持つそれらの機能に着目した人々は、スポーツを「まちづく  
り」に活用しようとし、スポーツクラブでは、地域の人々のつながりの醸成や再獲得が数多く実践さ  
れてきているといえる。さらに、近年では政府も、スポーツを国の成長戦略の柱と捉え、大規模な  
スポーツ施設を中心とした開発、あるいは地方の創生や活性化にも活用しようとしている。

このようにスポーツとまちづくりとの関係を鑑みても、その規模、主体となる集団、その目的は極め  
て多様である。一方で、2014年に本学で開催した研究集会において、演者の社会学者は「(いくら  
システムを整えても)住民が本気にならない限り、地域(まち)づくりはできない」と述べ、スポーツを  
通した外発的な街づくりには限界があるとの指摘も記憶に新しいところである。

また、先般徳島大学で開催された体育学会における体育経営管理(本学会と同じの研究対象  
の領域)シンポジウムにおいて、地域のスポーツシステムの持続可能性が議論され、社会やそれ  
に伴う制度的な変化のなかで、地域のスポーツ活動と組織が継続していくことのむずかしさは、  
我々にとって実践的な研究課題として再認識されたばかりである。

そこで今回の研究集会では、スポーツを通じたまちづくりの実践に奮闘しているアクターを招き、改  
めて将来もスポーツがあるまちづくりについて、東北地方を中心に議論する機会としたいと考えた。  
地域スポーツの研究者だけではなく、地域におけるスポーツ行政担当者や、地域でのクラブ活動  
に携わるクラブマネジャー、さらに地域づくりを研究する本学科の学生を交え、2020年後の地域ス  
ポーツと「まちづくり」の新たな関係性を見出していきたいと考えている。

### — プログラム —

講演

「希望のスポーツまちづくり論」

演者：高岡 敦史 氏 (岡山大学/スポーツ経営学)

パネルディスカッション

「東北とスポーツの未来(2020の先へ)」

ファシリテーター：天野 和彦 氏 (東北学院大学/スポーツ経営学)

◆東北人と地域のスポーツ

佐久間 政広 氏 (東北学院大学/農村社会学)

◆仙台のスポーツ、いままでとこれから

武田 均 氏 (スポーツコミッションせんだい事務局長)

◆地域二一ズを実現する荒井東の官民連携まちづくり

榊原 進 氏 (都市デザインワークス代表理事)